



九州佐賀
国際空港
KYUSHU-SAGA
International AIRPORT

佐賀空港滑走路延長事業 計画段階環境配慮書

の概要

令和5年8月

佐賀県

1.はじめに

佐賀空港は、アジアに近く、九州各地へのアクセスに優れており、佐賀空港がめざす将来像においては、「基幹路線である東京便を中心としながら LCC 拠点空港化を進め、九州におけるゲートウェイ空港としての地位を確立すること」と定めています。

これまで、佐賀空港に就航中の国際線航空会社からは、2,000m滑走路のため、経験豊富なパイロットで運航するなどの特別な対応が必要であることから、2,500m化への早期実現を望まれています。

2,500m化することで既存の航空会社による路線展開の自由度が増し、東南アジア諸国等との直行便の就航も可能となります。これにより、国際線の増便や新規路線の就航による更なる国際交流の促進も見込まれ、また、観光立国の推進にも寄与することから、滑走路を現在の 2,000m から 2,500m に延長するものです。

佐賀県では、滑走路を延長するため、環境影響評価法の規程に基づき、計画段階環境配慮書(以下、「配慮書」という。)をとりまとめましたので公表します。

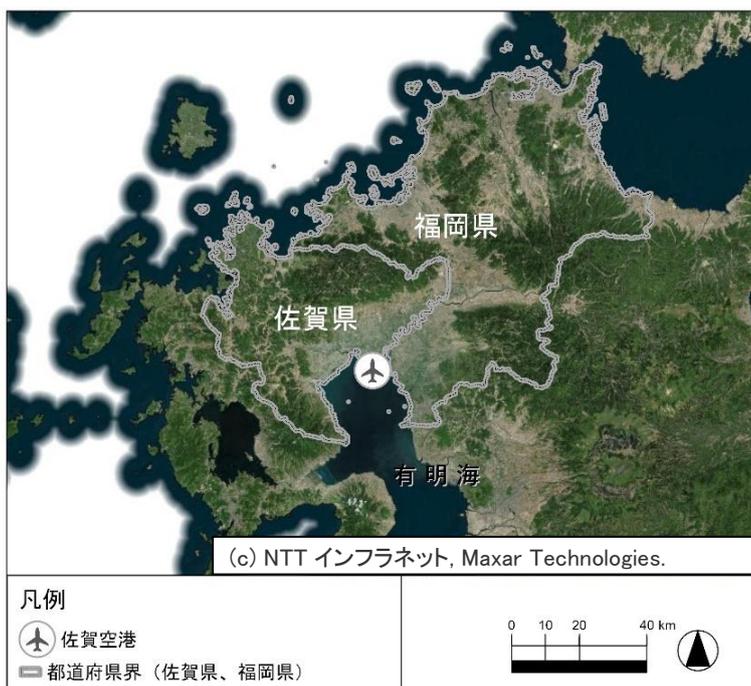
配慮書とは、事業の位置・規模等の検討段階において、環境保全のために配慮すべき事項について検討結果をまとめた図書です。今回、皆様からの意見をいただき、環境に配慮した空港整備を実施していきます。

～参考～ 環境影響評価（環境アセスメント）とは

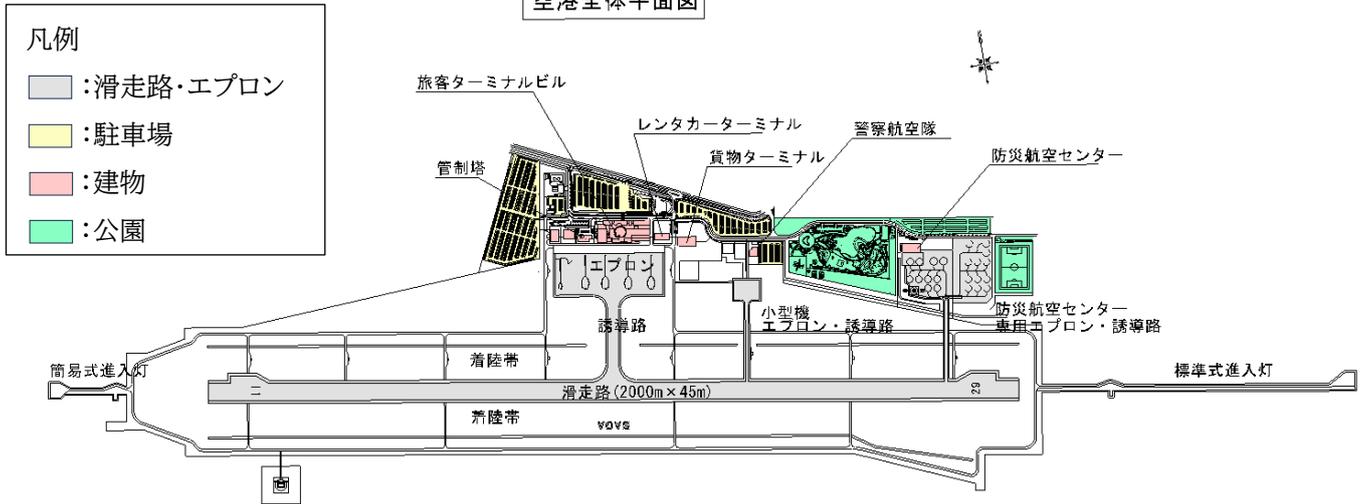
開発事業の内容を決めるに当たって、それが環境にどのような影響を及ぼすかについて、事業者自らが調査・予測・評価を行い、その結果を公表して一般の方々、地方公共団体などからの意見を聴き、それらを踏まえて環境保全の観点からよりよい事業計画を作り上げていこうという制度です。

2.佐賀空港の概要

項目	内容
名称	佐賀空港 (愛称:九州佐賀国際空港)
種別	地方管理空港
設置管理者	佐賀県
位置	佐賀県佐賀市川副町
供用開始日	平成10年(1998年)7月28日
空港面積	114.1ha
滑走路 (長さ×幅)	2,000m×45m
スポット数	5スポット +小型機用4スポット
運用時間	6:30~24:00 (17.5時間)
旅客施設 旅客ターミナルビル	延床面積13,970㎡
駐車場	約2,200台
貨物施設・貨物上屋	延床面積1,210㎡

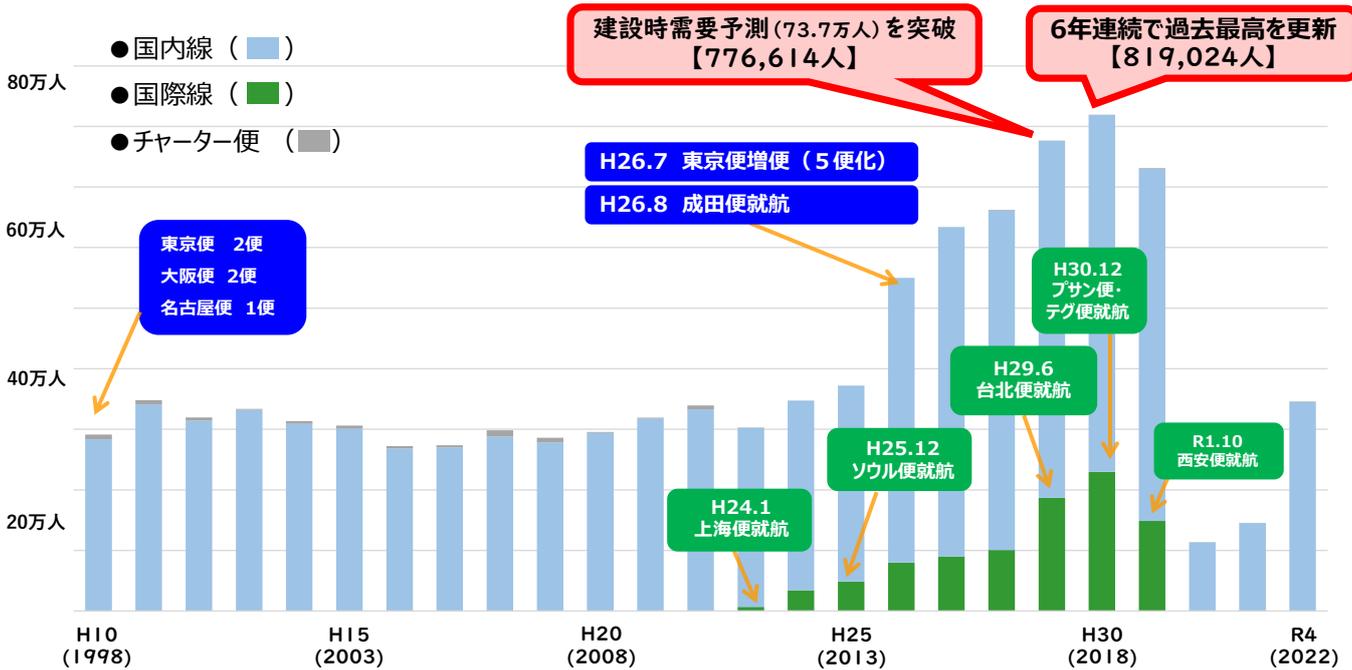


空港全体平面図



3.利用状況

旅客数は、平成10年の開港以来30万人前後で推移していました。その後、平成25年度以降、国際線の就航や国内線の増便により、利用者数は増加傾向にあり、平成30年度には過去最高となる81.9万人を記録しました。令和元年度以降は、日韓情勢や新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大きく落ち込みました。令和4年度以降は、人流の本格的な回復に伴って利用者数は回復基調にあり、また、令和5年4月からは順次国際線が運航を再開しています。

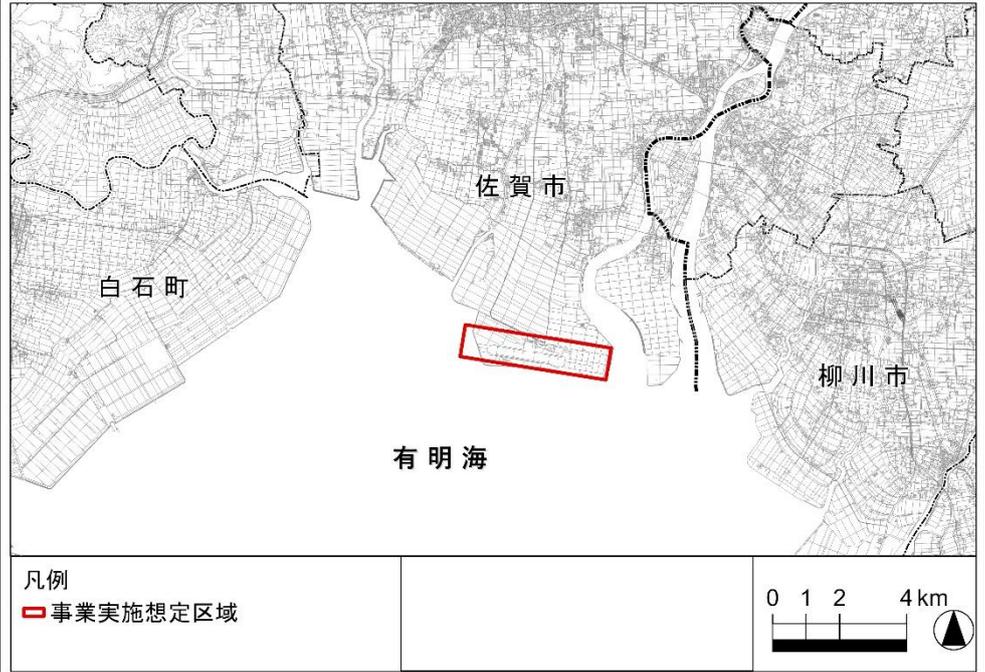


4.事業の概要

事業予定者の名称	佐賀県
代表者の氏名	佐賀県知事 山口 祥義
主たる事務所の所在地	佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号
事業の名称	佐賀空港滑走路延長事業
事業の種類	滑走路の延長を伴う飛行場及びその施設の変更の事業
事業の規模	延長する長さ500m、延長後の滑走路長2,500m

事業実施想定区域の位置

佐賀県佐賀市川副町のうち、下図に示す区域



5. 事業の位置・規模に関する複数案

滑走路延長にあたり、新たな埋立を行わないことを前提として、下記の2案を想定しました。

案1 (滑走路を東側に500m延長)



(c) NTTインフラネット, Maxar Technologies.

案2 (滑走路を西側に100m、東側に400m延長)



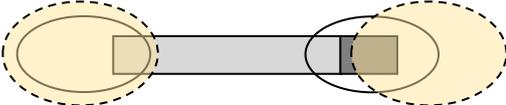
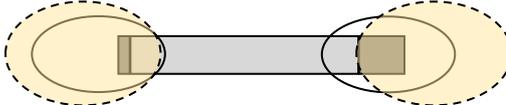
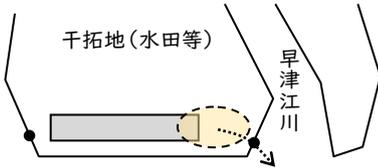
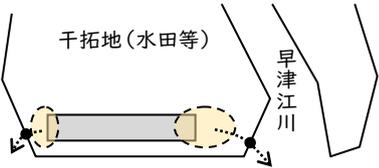
(c) NTTインフラネット, Maxar Technologies.

※ILS (Instrument Landing System: 計器着陸装置)

着陸のため滑走路へ向かって進入中の航空機に対して、指向性のある電波を発射して、滑走路への進入コースを指示する無線着陸援助装置

6. 計画段階配慮事項に関する予測結果

計画段階配慮事項は、前述の「案1」、「案2」に関して、専門家の助言を踏まえ、重大な影響を受けるおそれがある騒音、水質、動物、植物、生態系、温室効果ガス等を選定し、案ごとに予測を行い、その結果を比較しました。なお、予測は現時点での事業計画に応じて可能な範囲で実施したものです。

調査項目	案1 (滑走路を東側に500m延長)	案2 (滑走路を西側に100m、東側に400m延長)
騒音	<p><飛行騒音の増加領域のイメージ></p>  <p> :現在の滑走路 :滑走路の延長部 :現在の騒音影響のイメージ :供用時の騒音影響のイメージ </p> <ul style="list-style-type: none"> ・航空機の離着陸回数の増加や大型化、搭載燃料の増加による離陸時の上昇角度が小さくなることに伴い、騒音影響は増加する。 ・滑走路は東側に向けて延長されるため、騒音影響を受ける領域が東側に移動する。 	<p><飛行騒音の増加領域のイメージ></p>  <p> :現在の滑走路 :滑走路の延長部 :現在の騒音影響のイメージ :供用時の騒音影響のイメージ </p> <ul style="list-style-type: none"> ・航空機の離着陸回数の増加や大型化、搭載燃料の増加による離陸時の上昇角度が小さくなることに伴い、騒音影響は増加する。 ・滑走路は東側、西側にそれぞれ延長されるため、騒音影響を受ける領域が東側、西側に移動する。
水質(水の汚れ、土砂による水の濁り)	<p><排水の流出先のイメージ></p>  <p> :現在の滑走路 :改変区域のイメージ :排水樋門 :排水の流出先のイメージ </p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事中や供用時の排水は、空港周辺の水路から東側の排水樋門を経由して、早津江川河口や有明海(干潟域)に達すると考えられる。 	<p><排水の流出先のイメージ></p>  <p> :現在の滑走路 :改変区域のイメージ :排水樋門 :排水の流出先のイメージ </p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事中や供用時の排水は、空港周辺の水路から東西2箇所の排水樋門を経由して、早津江川河口や有明海(干潟域)に達すると考えられる。 ・工事中において、既設の進入灯台2基の移設に伴い海域の一部を改変するため、一時的に水の濁りが発生すると考えられる。

調査項目	案 1	案 2																				
動物	<p><動物の生息環境へ想定される直接改変></p> <table border="1" data-bbox="256 271 815 443"> <thead> <tr> <th>動物の生息環境</th> <th>直接改変の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水田・畑地等</td> <td>一部消失</td> </tr> <tr> <td>河川</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>干潟</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>注目すべき生息地</td> <td>一部消失</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな滑走路の整備（東側 500m）により、水田・畑地等で構成される環境に生息する動物の生息環境が一部消失するものと予測される。 ・注目すべき生息地（カササギ生息地、佐賀平野のクリークや水路）が一部消失するものと予測される。 ・航空機の離着陸回数の増加や大型化、搭載燃料の増加に伴う離陸時の上昇角度が小さくなることに伴い、干潟（東よか干潟等）や水域に生息する鳥類の移動の妨げとなる可能性、並びに航空機と鳥との衝突により、鳥類の重要な種に影響を及ぼす可能性が増加する。 ・供用時の排水は空港周辺の水路から東側の排水樋門を経由して、早津江川河口や有明海（干潟域）に達すると考えられる。 	動物の生息環境	直接改変の状況	水田・畑地等	一部消失	河川	なし	干潟	なし	注目すべき生息地	一部消失	<p><動物の生息環境へ想定される直接改変></p> <table border="1" data-bbox="879 271 1437 443"> <thead> <tr> <th>動物の生息環境</th> <th>直接改変の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水田・畑地等</td> <td>一部消失</td> </tr> <tr> <td>河川</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>干潟</td> <td>一部消失</td> </tr> <tr> <td>注目すべき生息地</td> <td>一部消失</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな滑走路の整備（西側 100m、東側 400m）及び既設の進入灯台 2 基の移設により、水田・畑地等及び干潟で構成される環境に生息する動物の生息環境が一部消失するものと予測される。 ・注目すべき生息地（カササギ生息地、佐賀平野のクリークや水路）が一部消失するものと予測される。 ・航空機の離着陸回数の増加や大型化、搭載燃料の増加に伴う離陸時の上昇角度が小さくなることに伴い、干潟（東よか干潟等）や水域に生息する鳥類の移動の妨げとなる可能性、並びに航空機と鳥との衝突により、鳥類の重要な種に影響を及ぼす可能性が増加する。 ・供用時の排水は空港周辺の水路から東西 2 箇所排水樋門を経由して、早津江川河口や有明海（干潟域）に達すると考えられる。 ・工事中において、既設の進入灯台 2 基の移設に伴い海域の一部を改変するため、一時的に水の濁りが発生すると考えられる。 	動物の生息環境	直接改変の状況	水田・畑地等	一部消失	河川	なし	干潟	一部消失	注目すべき生息地	一部消失
	動物の生息環境	直接改変の状況																				
水田・畑地等	一部消失																					
河川	なし																					
干潟	なし																					
注目すべき生息地	一部消失																					
動物の生息環境	直接改変の状況																					
水田・畑地等	一部消失																					
河川	なし																					
干潟	一部消失																					
注目すべき生息地	一部消失																					
植物	<p><植物の生育環境へ想定される直接改変></p> <table border="1" data-bbox="256 1379 815 1552"> <thead> <tr> <th>植物の生育環境</th> <th>直接改変の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水田・畑地等</td> <td>一部消失</td> </tr> <tr> <td>河川</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>干潟</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>重要な群落</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな滑走路の整備（東側 500m）により、水田・畑地等の植物の生育環境が一部消失するものと予測される。 ・供用時の排水は空港周辺の水路から東側の排水樋門を経由して、早津江川河口や有明海（干潟域）に達すると考えられる。 	植物の生育環境	直接改変の状況	水田・畑地等	一部消失	河川	なし	干潟	なし	重要な群落	なし	<p><植物の生育環境へ想定される直接改変></p> <table border="1" data-bbox="879 1379 1437 1552"> <thead> <tr> <th>植物の生育環境</th> <th>直接改変の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水田・畑地等</td> <td>一部消失</td> </tr> <tr> <td>河川</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>干潟</td> <td>一部消失</td> </tr> <tr> <td>重要な群落</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな滑走路の整備（西側 100m、東側 400m）及び既設の進入灯台 2 基の移設により、水田・畑地等及び干潟の植物の生育環境が一部消失するものと予測される。 ・供用時の排水は空港周辺の水路から東西 2 箇所排水樋門を経由して、早津江川河口や有明海（干潟域）に達すると考えられる。 ・工事中において、既設の進入灯台 2 基の移設に伴い海域の一部を改変するため、一時的に水の濁りが発生すると考えられる。 	植物の生育環境	直接改変の状況	水田・畑地等	一部消失	河川	なし	干潟	一部消失	重要な群落	なし
植物の生育環境	直接改変の状況																					
水田・畑地等	一部消失																					
河川	なし																					
干潟	なし																					
重要な群落	なし																					
植物の生育環境	直接改変の状況																					
水田・畑地等	一部消失																					
河川	なし																					
干潟	一部消失																					
重要な群落	なし																					

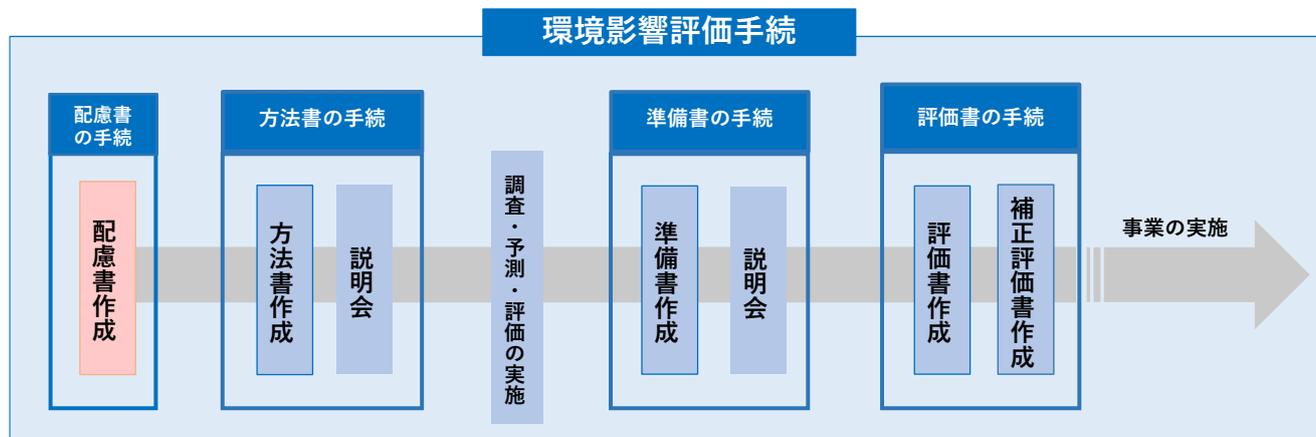
調査項目	案 1	案 2																
生態系	<p align="center">＜生態系へ想定される直接改変＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="268 300 639 383">生態系 (主な注目種)</th> <th data-bbox="639 300 842 383">直接改変の 状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="268 383 639 680">耕地生態系 (イタチ属、ハヤブサ、ヒバリ、ニホンカナヘビ、ヌマガエル、ツマグロバッタ、ヤマトシジミ、アオモンイトトンボ、モツゴ、水田雑草群落)</td> <td data-bbox="639 383 842 680">一部消失</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 680 639 853">干潟生態系 (ズグロカモメ、ムツゴロウ、シオマネキ、オオツノハネカクシ、塩生植物)</td> <td data-bbox="639 680 842 853">なし</td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 853 639 987">市街地生態系 (イタチ属、ムクドリ、ニホンカナヘビ、ヤマトシジミ)</td> <td data-bbox="639 853 842 987">なし</td> </tr> </tbody> </table>	生態系 (主な注目種)	直接改変の 状況	耕地生態系 (イタチ属、ハヤブサ、ヒバリ、ニホンカナヘビ、ヌマガエル、ツマグロバッタ、ヤマトシジミ、アオモンイトトンボ、モツゴ、水田雑草群落)	一部消失	干潟生態系 (ズグロカモメ、ムツゴロウ、シオマネキ、オオツノハネカクシ、塩生植物)	なし	市街地生態系 (イタチ属、ムクドリ、ニホンカナヘビ、ヤマトシジミ)	なし	<p align="center">＜生態系へ想定される直接改変＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="898 300 1270 383">生態系 (主な注目種)</th> <th data-bbox="1270 300 1473 383">直接改変の 状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="898 383 1270 680">耕地生態系 (イタチ属、ハヤブサ、ヒバリ、ニホンカナヘビ、ヌマガエル、ツマグロバッタ、ヤマトシジミ、アオモンイトトンボ、モツゴ、水田雑草群落)</td> <td data-bbox="1270 383 1473 680">一部消失</td> </tr> <tr> <td data-bbox="898 680 1270 853">干潟生態系 (ズグロカモメ、ムツゴロウ、シオマネキ、オオツノハネカクシ、塩生植物)</td> <td data-bbox="1270 680 1473 853">一部消失</td> </tr> <tr> <td data-bbox="898 853 1270 987">市街地生態系 (イタチ属、ムクドリ、ニホンカナヘビ、ヤマトシジミ)</td> <td data-bbox="1270 853 1473 987">なし</td> </tr> </tbody> </table>	生態系 (主な注目種)	直接改変の 状況	耕地生態系 (イタチ属、ハヤブサ、ヒバリ、ニホンカナヘビ、ヌマガエル、ツマグロバッタ、ヤマトシジミ、アオモンイトトンボ、モツゴ、水田雑草群落)	一部消失	干潟生態系 (ズグロカモメ、ムツゴロウ、シオマネキ、オオツノハネカクシ、塩生植物)	一部消失	市街地生態系 (イタチ属、ムクドリ、ニホンカナヘビ、ヤマトシジミ)	なし
	生態系 (主な注目種)	直接改変の 状況																
耕地生態系 (イタチ属、ハヤブサ、ヒバリ、ニホンカナヘビ、ヌマガエル、ツマグロバッタ、ヤマトシジミ、アオモンイトトンボ、モツゴ、水田雑草群落)	一部消失																	
干潟生態系 (ズグロカモメ、ムツゴロウ、シオマネキ、オオツノハネカクシ、塩生植物)	なし																	
市街地生態系 (イタチ属、ムクドリ、ニホンカナヘビ、ヤマトシジミ)	なし																	
生態系 (主な注目種)	直接改変の 状況																	
耕地生態系 (イタチ属、ハヤブサ、ヒバリ、ニホンカナヘビ、ヌマガエル、ツマグロバッタ、ヤマトシジミ、アオモンイトトンボ、モツゴ、水田雑草群落)	一部消失																	
干潟生態系 (ズグロカモメ、ムツゴロウ、シオマネキ、オオツノハネカクシ、塩生植物)	一部消失																	
市街地生態系 (イタチ属、ムクドリ、ニホンカナヘビ、ヤマトシジミ)	なし																	
温室効果ガス等	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな滑走路の整備(東側 500m)により、水田・畑地等からなる耕地生態系が一部消失し、注目種等の生息・生育に影響を及ぼすと予測される。 ・干潟生態系及び市街地生態系への直接改変はない。 ・供用時の排水は空港周辺の水路から東側の排水樋門を経由して、早津江川河口や有明海(干潟域)に達すると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな滑走路の整備(西側 100m、東側 400m)及び既設の進入灯台 2 基の移設により、水田・畑地等からなる耕地生態系並びに干潟生態系が一部消失し、注目種等の生息・生育に影響を及ぼすと予測される。 ・市街地生態系への直接改変はない。 ・供用時の排水は空港周辺の水路から東西 2 箇所の排水樋門を経由して、早津江川河口や有明海(干潟域)に達すると考えられる。 ・工事中において、既設の進入灯台 2 基の移設に伴い海域の一部を改変するため、一時的に水の濁りが発生すると考えられる。 																

本事業における計画段階配慮事項についての環境影響は、案ごとに若干の違いはあるものの、適切に環境に配慮することで、重大な影響を回避又は低減できるものと考えられます。

今後の環境影響評価手続きにおいて、より詳細な調査、予測及び評価を行い、必要に応じて環境保全措置を実施します。

7. 今後の流れ

環境影響評価法においては、計画段階配慮書の手続き後に、方法書、準備書、評価書の作成を順次進めることとされています。



8. 配慮書の縦覧・意見提出について

縦覧期間	令和5年8月18日(金)～令和5年9月19日(火) (土曜日・日曜日及び休日を除く)午前8時30分～午後5時00分
縦覧場所	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県庁 行政の窓口 佐賀県佐賀市城内1丁目1-59 ・佐賀県 佐賀空港事務所 佐賀県佐賀市川副町大字犬井道9476-187 ・佐賀市役所 総務部 総務法制課 佐賀県佐賀市栄町1-1 ・佐賀市役所川副支所 総務・地域振興グループ 佐賀県佐賀市川副町大字鹿江623-1 ・白石町役場 総合戦略課 佐賀県杵島郡白石町大字福田1247-1 ・柳川市役所 市民部 生活環境課 福岡県柳川市本町87-1
意見の提出・ お問い合わせ 先	<p>提出先：佐賀県地域交流部空港課 T E L: 0952-25-7104 F A X: 0952-25-7318 M a i l: kuukou@pref.saga.lg.jp</p> <p>提出期限：令和5年9月26日(火) 午後5時まで 郵送の場合は9月26日の消印まで有効</p> <p>記載事項：氏名及び住所、配慮書の名称並びに環境の保全の見地からの意見 ※佐賀空港のホームページにおいても配慮書をご覧いただけます。</p> <p>https://www.pref.saga.lg.jp/airport/kiji00398142/index.html</p>



↑ホームページ
はこちら